Bull. Fac. Life Env. Sci. Shimane Univ., 7：89－95, December 20, 2002

島根大学演習林の多様な教育的利用のためのアンケート調査報告

瀧本義彦・橋本　哲

Report on Survey by Questionnaire in Search of Various Educational Use of the Shimane University Forests

Takimoto Yoshihiko, Hashimoto Tetsu

Abstract　In order to comprehend the needs in the local community for use of the Shimane University Forests for educational purposes, a survey was made by questionnaire. The questionnaire was sent out to 290 elementary schools and 115 junior high schools in Shimane prefecture. 170 answers were received from 99 elementary schools and 57 answers were received from 37 junior high schools. It was more schools than expected.

The elementary schools do not consider it necessary to educate pupils on processing technology of timber. They do not consider it necessary either to have the pupils experience forest management, forestry, and timber industry as vocation. Many answers indicated that, although the schools wish to teach about forests through observations, experiments or experiences, they find it difficult because of limited time and budget as well as difficulty in locating the places to implement it. It was considered necessary to provide both elementary and junior high school teachers with training in this area. Some hopes were indicated for use of results from the university research works. On the other hand, it was indicated also that the schools can not understand their contents specifically.

Key words: University Forests, Educational Use, Elementary school, Junior high school, Forestry

は　じ　め　に

演習林は，大学が持つ教育研究施設です．そこでは，学内においては野外実習，野外研究に活用されています．今後，地域に開かれた大学を目指してゆく上で，演習林も直接的に地域に貢献してゆく必要があります．2000年3月に配布された生物資源科学部「外部評価報告書及び自己点検報告書」においては，心の教育や環境教育などの一環として，中学校や高等学校の生徒や若い教員に対する体験実習の開催が強く要望されています．また，学内での利用要望の実態も明らかではありません．つまり，演習林が多様な利用要求に的確に答えながら，島根大学の教育研究施設として活発に活動してゆくには，その教育的利用要望の実態を把握しておく必要があります．また平成14年度から児童・生徒の完全週5日制や「総合学習」の実施とも関連して，地域の小・中学校教員の間にはその実施に際し大学等との連携を求める声が強くあり，特に野外フイールドとして大学演習林には環境教育や体験学習の場として積極的な期待が寄せられると思われます．

そこで島根大学の理念のひとつである『地域のニーズにこたえ，信頼され必要とされる大学となる』ことを考慮して，地域社会における当演習林の教育的利用に関するニーズを把握するためにアンケート調査を行いました．特に今回の第1目的は，大学における森林・林業に関する専門的な知識や技術，あるいは演習林という広大な森林・林業のフィールドを小・中学校の教育に役立ててもらいたいと考え，演習林の存在を知ってもらうと同時にそのニーズを調べることです．

方　　法

島根県内の全小学校（国公立と私立，なお分校も1校として扱った）290校と，同じく全中学校115校に対して，教員を対象に平成13年度末に郵送でアンケート依頼状

（依頼文，設問・回答用紙２部と演習林の資料等を同封）を発送し，約２ヶ月後に回答を締め切りました．

回答は，小学校99校，170通，中学校37校，57通でした．小学校の回収率は校数で34%，部数で31%ありました．中学校の回収率は校数で32%，部数で25%ありました．小・中学校あわせた回収率は校数で33.5%，部数で28%ありました．

小・中学校ともにほぼ1/3の回収率で，当初の予想より多くの回答が寄せられたと思います．なお中学校では回答部数１校１通のところが17校で，回答校数の45%を占めました．これは中学校は３学年しかなく同じ回答になるため，１校１通の比率が高かったと思われます．

結果と考察

以下質問と回答の要点について報告します．

問1〜3は回答者の担当と生徒数に関する質問なので省略します．

1）問４の質問と回答及び考察

◎問4．島根大学に演習林が設置されていることをご存じでしたか？該当するものを１つ選び，その番号に○をつけてください．

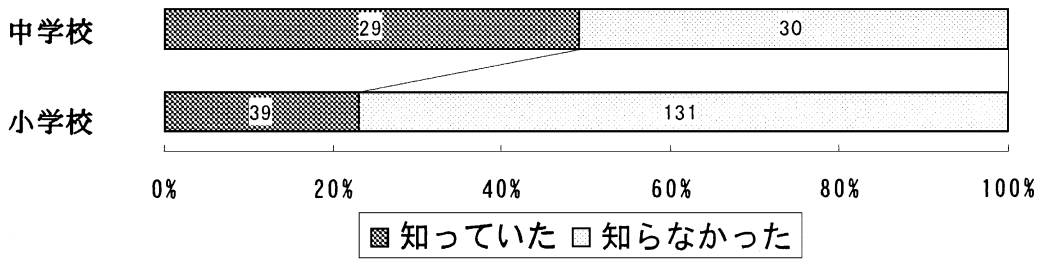
1．知っていた　　2．知らなかった

・問４の結果は図−1の通りです．「1．知っていた」と答えたのは小学校では約1/3，中学校では約1/2，そして全体では約30%でした．これは島根大学に演習林が設置されていることが知られていないことを表しており，今後の重要な課題です．

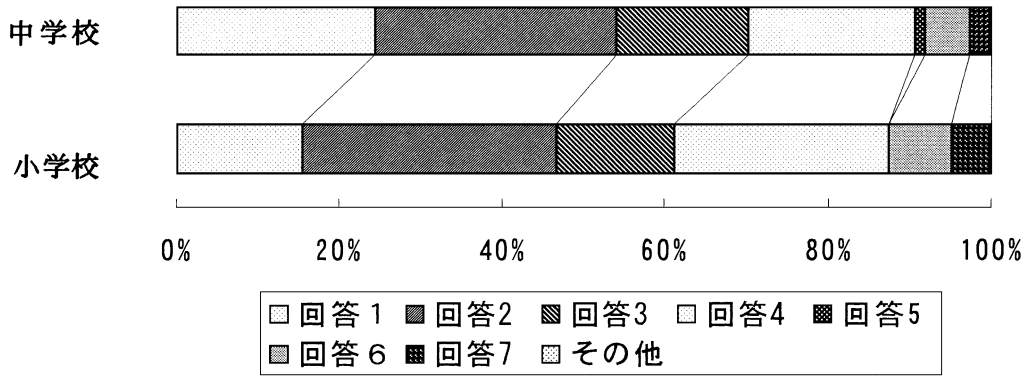
◎問4−1 「知っていた」とお答えの方におうかがいします．島根大学演習林は何のための施設と思われていましたか？　次の中から該当するものを全て選び，その番号に○をつけてください．

1．森林生態系や森林環境に関する教育
2．森林生態系や森林環境に関する研究
3．林業に関する教育
4．林業に関する研究
5．林業そのもの
6．森林の保護
7．貴重な樹木の保護
8．その他

・問4−1の結果は図−2の通りです．回答1〜4（森林・



図−1　問４（演習林設置の認識度）の回答



図−2　問4−1（演習林の設置目的）の回答

林業に関連する教育や研究をするための施設）が，小学校では約87%，中学校では約95%選ばれています．なお回答1と3（森林・林業に関連する教育をするための施設）の比率が小学校で約30%，中学校で約40%で，回答2と4（森林・林業に関連する研究をするための施設）の比率が小学校で約57%，中学校で約50%でした．つまり教育よりも研究をするための施設との認識が強く感じられます．

2）問5〜15の質問と回答及び考察

これより，問5から問15までの質問に対する回答の選択肢は全て同じです．各問に関して次の選択肢から該当するものを全て選び，その番号を各問の回答欄に記入してください．なお，選択肢中の「16．その他」については，各問毎に記入欄が設けられています．

◎問5〜15までの回答選択肢（複数回答可）

1．既に，知識として教えており，現在のところそれで十分である．
2．既に，知識として教えているが，体験的学習ができればより充実する．
3．既に，知識として教えているが，専門的知識があればより充実する．
4．今後，知識として教えてゆくつもりであり対応できる．
5．今後，知識として教えたいが，まず，教師の研修等が必要である．
6．今後，知識として教えたいが時間的制約のため難しい．
7．既に，観察・実験・体験等を通して教えており，現在のところそれで十分である．
8．既に，観察・実験・体験等を通して教えているが，専門的知識があればより充実する．
9．既に，観察・実験・体験等を通して教えているが，その方法について改善したい．
10．今後，観察・実験・体験等を通して教えてゆくつもりであり対応できる．
11．今後，観察・実験・体験等を通して教えたいが，まず，教師の研修等が必要である．
12．今後，観察・実験・体験等を通して教えたいが時間的制約のため難しい．
13．今後，観察・実験・体験等を通して教えたいが予算的制約のため難しい．
14．今後，観察・実験・体験等を通して教えたいが実施場所が見つからないため難しい．
15．今は，教える必要はない
16．その他

◎問5〜15の質問内容の要点

・問5．森林を構成する樹木の名前やその構成に関する教育について
・問6．森林やその分布に影響を与える無機的環境（気象，気候，水，土壌など）との関係に関する教育について
・問7．森林が生み出す地域環境あるいは地球環境に関する教育について
・問8．木材などの資源の側面から見た森林に関する教育について
・問9．森林から樹木を伐採収穫し，伐採地を森林に再生させる意義あるいはその理論と技術に関する教育について
・問10．伐採した樹木を木材にする技術やその木材を加工する技術に関する教育について
・問11．日本の林業や木材産業に関する教育について
・問12．環境の面からも資源の面からも森林を保全してゆく必要性に関する教育について
・問13．生徒の将来への可能性を拡げるために，多様な職業の1つとしての森林管理，林業，木材産業を体験させることについて
・問14．樹木を実際に山に入って伐採収穫し，それを木材に仕上げ，この木材を用いて簡単な木工品を制作したり炭を焼いたりすることで，普段の生活でふれている木質製品に対して，陳列されている切り身の商品ではなく森林との関係をもってイメージさせるような教育について
・問15．レクリエーションの場として森林を利用することで生徒に人間性と精神的安定を与え，同時に森林が人間生活を豊かにすることを教えることについて

◎問5〜15の結果と考察

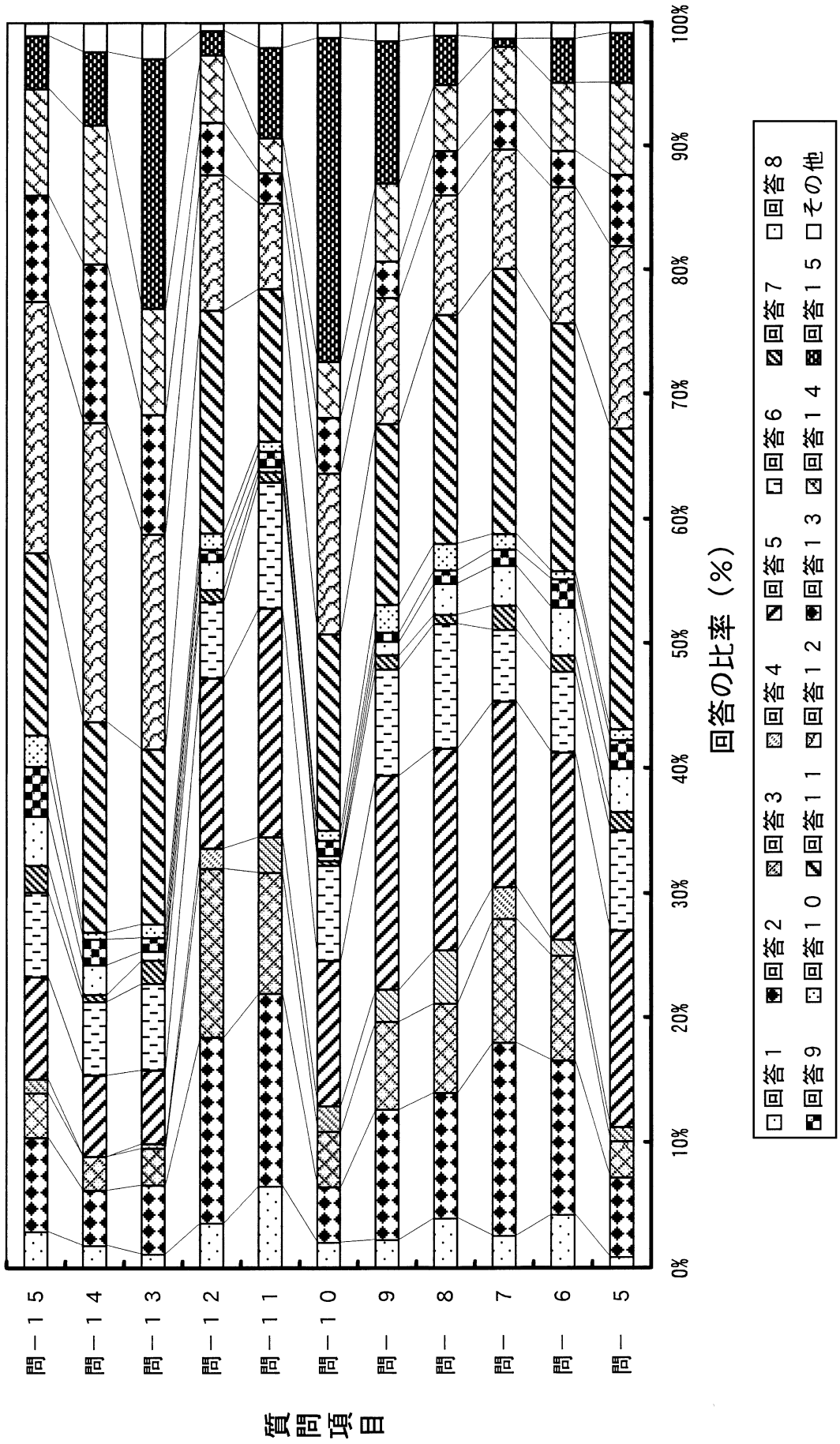
・小学校の場合

図−3は問5〜15の回答をグラフで表したものです．

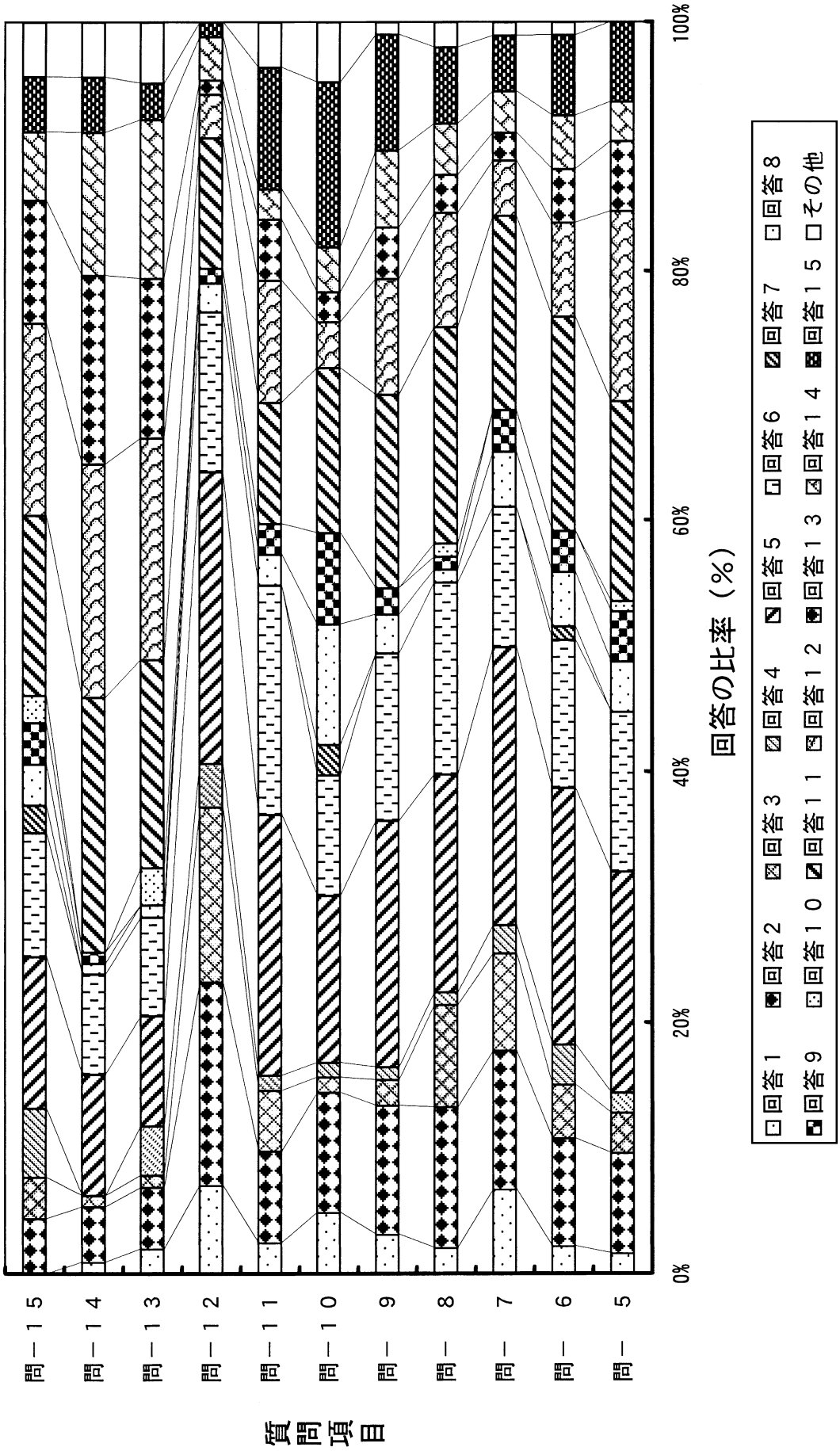
問5〜9では，教師の研修等が必要との回答5と11が多く両方で約35〜40%を占めています．

問10については，回答15（今は，教える必要がない．）が約26%で一番多く，木材の加工技術に関する必要を感じていません．

問11, 12では，回答5と11（教師の研修等が必要）が多く両方で約27%と30%を占めています．



図－3　問5～15に対する回答（小学校）



図－4　問5～15に対する回答（中学校）

問 13 では問 10 と同じく回答 15（今は，教える必要がない.）が約 20% で一番大きく，森林管理・林業・木材産業を職業として体験させる必要を感じていません.

問 14，15 では回答 12（今後，観察・実験・体験等を通して教えたいが時間的制約のため難しい.）が一番多く，似たような回答 13 と 14 を合わせると約 48% と 37% になり，必要を感じても実現が難しい実態が伺えます.

・中学校の場合

図－4 は問 5～15 の回答をグラフで表したものです.

問 5～9 では，教師の研修等が必要との回答 5 と 11 が多く両方で約 34～40% を占めています.

問 10 については，回答 5 と 11 と並んで，回答 15（今は，教える必要がない.）が約 13% で多く，木材の加工技術に関する必要をあまり感じていません.

問 11, 12 では，回答 5 と 11（教師の研修等が必要）が多く両方で約 30% と 34% を占めています.

問 13～15 では回答 12（今後，観察・実験・体験等を通して教えたいが時間的制約のため難しい.）が多く，似たような回答 13 と 14 を合わせると約 31%～45% になり，必要を感じても実現が難しい実態が伺えます．また問 14 では回答 5 と 11（教師の研修等が必要）も多く約 30% を占めています.

小・中学校を通じて，現在の対応で十分とかこれからも対応できるとの回答は平均約 4～５％で，多くても 10% でした.

3）問 16．貴校において森林生態学や森林環境科学あるいは林業学や木材工学に関係する授業や実習を行われる場合，大学における森林・林業に関する知的蓄積や研究成果をどのような形で利用したいですか？

下の選択肢から該当するものを２つ以内選び，その番号に○をつけてください.

1. 大学教官に現場に出向いてもらい，直接的に生徒指導をしてもらいたい.
2. 学校の授業や生徒指導に必要十分な内容が指導者に身に付くように，大学において教師のための森林教育プログラムを作ってもらい，社会人の大学受け入れ制度のような形で研修したい.
3. 授業の内容や構成あるいは指導方法などについて，関係する大学教官と議論したい．直接的な生徒指導には大学教官は必要ではない.
4. 特に利用する必要はない
5. その他

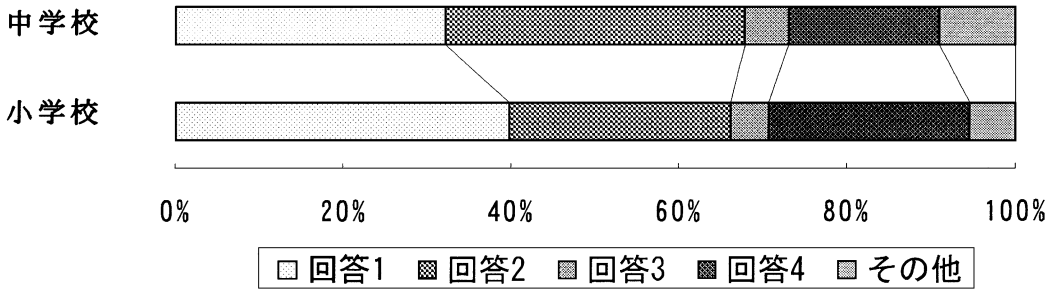
◎図－5 は問 16 の回答です.

大学の各種成果について，回答 1（直接の指導を希望）が，小学校で約 40%，中学校で約 32% でした．また回答 2（大学での教員の研修希望）が小学校で約 27%，中学校で約 36% でした．つまり，回答 1 と 2 を合わせて小・中学校で約 70% が大学の各種成果を何らかの形で利用することを希望しています．しかし回答 4（特に利用する必要はない）が小学校で約24%，中学校で約18% ありました．また回答 5 の中には，どの様な形で利用できるか分からないと書かれたものもあり，回答 4 と合わせて，こちらからの説明不足な点があったと思われます.

4）問 17．島根大学の演習林を森林・林業など関する教育フィールドとして活用する可能性はありますか？あるとすればどのような教育活動が考えられますか？（選択肢はありません）

◎問 17 の回答（小学校 128 回答，中学校 49 回答）はその内容から分類すると次のようになります.

①：可能性を肯定する回答が，小学校で 27 件（約 21%），中学校で 17 件（約 35%）と低かったです．内容



図－5　問 16（大学の各種成果の利用）の回答

としては，体験学習や教員の研修に対する希望が書かれていました．

②：可能性を否定する回答が，小学校で 101 件（約 79%），中学校で 32 件（約 65%）と高かったです．内容としては，距離的・時間的・予算的な面で難しいとの回答が沢山見られました．その他，わざわざ演習林まで行く価値に対する疑問や具体的にどの様な内容が出来るのかといった疑問が書かれていました．

5）問 18．森林・林業に関する教育について，当部門や大学へのご意見，ご要望がございましたら何でも結構ですのでご記入ください．

◎問 18 の回答は小学校 51 回答，中学校 19 回答ありました．個々の回答内容は多岐にわたっていますので，今後部門内で検討し，森林・林業に関する教育に反映したいと思っています．

◎問 19 はアンケートの集計結果の報告に関するもので，ここでは省略します．

ま　と　め

今回のアンケート調査で次のことが分かりました．

1）小・中学校ともにほぼ 1/3 の回収率で，当初の予想より多くの回答が寄せられたと思います．

2）島根大学に演習林が設置されていることを「知っていた」と答えたのは小学校では約 1/3，中学校では約 1/2, そして全体では約 30% と少なく，今後の重要な課題です．

3）小学校では，木材の加工技術に関する教育の必要を感じていない点と，森林管理・林業・木材産業を職業として体験させる必要を感じていない点が特徴的でした．

4）小・中学校を通じて，観察・実験・体験等を通して教えたいが時間的・予算的制約と実施場所が見つからないため難しいという回答が多く，必要を感じても実現が難しい実態が伺えました．

5）教師の研修に対する必要性が，小・中学校を通じて感じられました．

6）大学の各種成果に対する利用希望が多かったですが，反面その内容を具体的に理解できないとの指摘もありました．

7）今回は紙面の都合で，とりあえず集計結果を中心に報告したが，記述式回答に対するとりまとめを含めて今後より詳しい報告を作成したい．

謝　　辞

今回のアンケート調査は，一方的に郵送で依頼したにもかかわらず沢山の小・中学校の教員の方々から丁寧な回答いただき感謝の念に堪えません．貴重なご意見を，今後の森林科学部門の教育・研究と演習林の運営に生かしてゆきたいと思います．

なお，このアンケート調査は平成 13 年度教育改善推進費（学長裁量経費）の補助を受けて実施した事を申し添えておきます．